

新約聖書 ルカによる福音書 15 章 1 節—10 節（新共同訳）

¹「徴税人や罪人が皆、話を聞こうとしてイエスに近寄って来た。²すると、ファリサイ派の人々や律法学者たちは、「この人は罪人たちを迎えて、食事まで一緒にしている」と不平を言いだした。³そこで、イエスは次のたとえを話された。⁴「あなたがたの中に、百匹の羊を持っている人がいて、その一匹を見失ったとすれば、九十九匹を野原に残して、見失った一匹を見つけ出すまで捜し回らないだろうか。⁵そして、見つけたら、喜んでその羊を担いで、⁶家に帰り、友達や近所の人々を呼び集めて、『見失った羊を見つけたので、一緒に喜んでください』と言うであろう。⁷言うておくが、このように、悔い改める一人の罪人については、悔い改める必要のない九十九人の正しい人についてよりも大きな喜びが天にある。」

⁸「あるいは、ドラクメ銀貨を十枚持っている女がいて、その一枚を無くしたとすれば、ともし火をつけ、家を掃き、見つけるまで念を入れて捜さないだろうか。⁹そして、見つけたら、友達や近所の女たちを呼び集めて、『無くした銀貨を見つけましたから、一緒に喜んでください』と言うであろう。¹⁰言うておくが、このように、一人の罪人が悔い改めれば、神の天使たちの間に喜びがある。」

※第 1 朗読と第 2 朗読は末尾に掲載

説教「見つけたら」

本日の福音書は「徴税人や罪人が皆、話を聞こうとしてイエスに近寄って来た」という場面から始まります（ルカ 15:1）。

イエスの言葉に救いを求めたのは、社会的地位のある人々ではなく、ユダヤ社会において蔑視されていた徴税人や、罪人扱いされていた貧しい人々でした。

当時の宗教者たちは、貧しい人々や罪人に神の言葉を伝えても無駄だと考えていました。しかし、イエスの話を聞きたいと望み、イエスのもとに集まって来たのは、このように社会から爪はじきにされていた人たちでした。

ファリサイ派の人々や律法学者たちは、イエスの話を聞くために人々が集まってくるのを苦々しく思っていました。自分たちの権威が脅かされる恐れや、妬みの気持ちがあったのでしょう。このような気持ちは、本能的に人間に備わっているのだと思います。

ユダヤ人にとって「食卓を共にする」ことは最も深い友情の表れでした。イエスを敵対視するファリサイ派や律法学者の人たちは、イエスに対して「この人は罪人たちを迎えて、食事まで一緒にしている」と非難します（ルカ 15:2）。

そんな彼らに、イエスは二つのたとえ話をします。これら二つのたとえ話は、それぞれの話に出てくる羊飼いと女性が、失われたものを懸命に捜し出そうとする姿を描いています。

これらのたとえに共通する「見失ったものを捜し、見出す」とは、神の救いのプロセス・過程を示しています。父なる神は、罪によって失われた人間を深くあわれみ、愛をもって捜し求め、ついに見出し、救い出すのです。

神は、ご自身に背いて離れた罪人に対し、愛をもってご自身のもとに「立ち帰れ」と求め、呼びかけ続けます。罪は、神のあわれみの光を受けるとその姿を変え、神のあわれみを反射するものとなります。それは、私たちの罪そのものが、神の福音のもとに、神のあわれみを輝かす場となるということです。

百匹の羊の中で、九十九匹を残して失われた一匹の羊を見つけ出したたとえには、「喜び」という言葉が繰り返されます（5 節、6 節、7 節）。それは、天における「喜び」です。見失った、百匹の中のたった一匹の羊を見出した羊飼いの喜びが、友達や近所の人々の喜びへと広がっていきます。

このたとえはまた、失われた一匹の羊を見捨てることなく懸命に捜し求め、それを見つけたら心から喜ぶ羊飼いの姿を通して、一人一人の人間がかけがえのない存在であることを示しています。

次にイエスは、ドラクメ銀貨十枚、すなわち十日分の賃金に相当する銀貨を持っている女性が、そのうちの一枚を無くしたたとえを語ります。このドラクメ銀貨十枚というのは、おそらく花嫁料であったと考えられます。花嫁料とは、結婚前に花婿から受け取る結納金のことです。紀元1世紀のパレスチナでは、ドラクメ銀貨十枚というのが、花嫁料の標準的な相場であったようです。

その十枚のドラクメ銀貨のうちの一枚を無くして、九枚になってしまったことは、この女性にとって、大事な何かが欠けてしまった深い喪失感があったと思います。

銀貨を一枚なくした女性は、それを見つけるまで念を入れて捜し、そして見つけたら、友達や近所の女性たちを呼び集めて、「無くした銀貨を見つけたから、一緒に喜んでください」と言うだろうとイエスは語ります（ルカ 15:9）。

友人たちを呼び集めるこの女性の行動には、失ったものを見出した喜びが表れています。

本日の福音書は、イエスのこのような言葉で締めくくられます。「このように、一人の罪人が悔い改めれば、神の天使たちの間に喜びがある」（ルカ 15:10）。

「神の天使たちの間に喜びがある」とは、神が喜ぶことを意味しており、見失った羊を見つけるたとえと同様に、ここでも、失われたものを見出す神の喜びが表されています（ルカ 15:10）。

これらのたとえで共通することは、「一緒に喜んでください」と共に喜ぶことが促されていることです。ここで言う「一緒に喜ぶ」とは、「神と一緒に喜ぶ」ことだと言えるでしょう。

人間には、妬みやプライドのために、なかなか人の幸せを素直に喜べない側面があります。しかし、喜びは個人の中に秘めて留めておくべきものではなく、人と共に分かち合うことによってより豊かなものとなります。また、人の喜びを共に喜び、共に祝うことにより、自分自身にも祝福が与えられるのです。

これらの二つのたとえの、「一緒に喜んでください」という言葉は、イエスの言葉に聞くために人々が集まってくることを苦々しく思っていた、ファリサイ派や律法学者にも向けられたものであると思います（6節と9節）。

そして、百匹の中の失われた一匹の羊を見つけ出すたとえにおいて、迷子になった一匹が見つかったことを共に喜ぶことを求められる者は、羊飼いの友達や近所の人々だけではなく、他の九十九匹の羊たちでもあるのではないのでしょうか。

この九十九匹の羊たちは、羊飼いが一匹を探しに行ったことで取り残され、危険にさらされました。羊飼いがいなくなって不安な気持ちになったり、羊飼いの愛情が他のたった一匹に向けられて、自分たちには愛情が注がれていないという不満を感じてしまうかもしれません。

ですがそんな状況においても、仲間の一匹の羊が見つけ出されたことを、他の羊たちが心から一緒に喜んであげることができたなら、神の天使たちの間に大きな喜びがあるでしょう。

私たち人間にはどうしても、目先の損得感情に振り回され、不満や不足感を持ってしまふところがあります。しかしそんな時は、この状況において、どのような思いを持てば神が喜ぶのかを意識してみてください。それは、自分自身の心の平安につながるでしょう。

私たちは、いつも自らの心を神に預け、神と共に生きていることを覚えながら、日々、悔い改め、希望と喜びをもって共に歩んで行きましょう。

お祈りをいたします。

天の父なる神様。あなたが私たちに託し、与えてくださっているものを思い起こし、大切にすることができるよう。隣人の喜びを、あなたと共に我が喜びとし、また自分の喜びを分かち合っていくことができますように。救い主イエス・キリストによって祈ります。アーメン

***** 説教ここまで *****

旧約聖書 出エジプト記 32 章 7 節—14 節（新共同訳）

⁷主はモーセに仰せになった。「直ちに下山せよ。あなたがエジプトの国から導き上った民は墮落し、⁸早くもわたしが命じた道からそれて、若い雄牛の銅像を造り、それにひれ伏し、いけにえをささげて、『イスラエルよ、これこそあなたをエジプトの国から導き上った神々だ』と叫んでいる。」⁹主は更に、モーセに言われた。「わたしはこの民を見てきたが、実にかたくなな民である。¹⁰今は、わたしを引き止めるな。わたしの怒りは彼らに対して燃え上がっている。わたしは彼らを滅ぼし尽くし、あなたを大いなる民とする。」¹¹モーセは主なる神をなだめて言った。「主よ、どうして御自分の民に向かって怒りを燃やされるのですか。あなたが大いなる御力と強い御手をもってエジプトの国から導き出された民ではありませんか。¹²どうしてエジプト人に、『あの神は、悪意をもって彼らを山で殺し、地上から滅ぼし尽くすために導き出した』と言わせてよいのでしょうか。どうか、燃える怒りをやめ、御自分の民にくだす災いを思い直してください。¹³どうか、あなたの僕であるアブラハム、イサク、イスラエルを思い起こしてください。あなたは彼らに自ら誓って、『わたしはあなたたちの子孫を天の星のように増やし、わたしが与えると約束したこの土地をことごとくあなたたちの子孫に授け、永久にそれを継がせる』と言われたではありませんか。」¹⁴主は御自身の民にくだす、と告げられた災いを思い直された。

新約聖書 テモテへの手紙 ー 1 章 12 節—17 節（新共同訳）

¹²わたしを強くしてくださった、わたしたちの主キリスト・イエスに感謝しています。この方が、わたしを忠実な者と見なして務めに就かせてくださったからです。¹³以前、わたしは神を冒瀆する者、迫害する者、暴力を振るう者でした。しかし、信じていないとき知らずに行ったことなので、憐れみを受けました。¹⁴そして、わたしたちの主の恵みが、キリスト・イエスによる信仰と愛と共に、あふれるほど与えられました。¹⁵「キリスト・イエスは、罪人を救うために世に来られた」という言葉は真実であり、そのまま受け入れるに値します。わたしは、その罪人の中で最たる者です。¹⁶しかし、わたしが憐れみを受けたのは、キリスト・イエスがまずそのわたしに限りない忍耐をお示しになり、わたしがこの方を信じて永遠の命を得ようとしている人々の手本となるためでした。¹⁷永遠の王、不滅で目に見えない唯一の神に、誉れと栄光が世々限りなくありますように、アーメン。

教会讃美歌 292 番「重荷をにないて」、337 番「やすかれ」、382 番「ここは神の」。